

**令和 7 年度
いわき市保健医療審議会
歯科口腔保健協議部会
議事録**

いわき市保健所 地域保健課

令和7年度 いわき市保健医療審議会 歯科口腔保健協議部会

1 日 時 令和7年10月2日（木） 午後2時00分～午後3時30分

2 場 所 いわき市総合保健福祉センター 3階 社会復帰会議室

3 出席者

委 員	原口 英明	委 員	鳥居 直子
委 員	赤津 雅美	委 員	加藤 すみ子
委 員	飯塚 修一	委 員	小野 清美
委 員	菅原 勝人	委 員	野口 浩文

4 事務局職員

いわき市保健所	所長	新家 利一
	次長	阿部 通
	参事兼課長	門馬 將洋
	課長補佐	平山 美香
	係長	高木 洋平
	歯科衛生技師	新妻 安菜
	歯科衛生技師	秋山 綾

5 議 事

(1) 報告事項

- ア いわき市の歯科保健の現状について
- イ 令和6年度庁内各課の取り組み
(健康いわき 21 (第三次) 関連事業の評価)
- ウ 令和7年度保健所地域保健課の取り組み

(2) 協議事項

私立就学前施設におけるフッ化物洗口事業の推進について

6 会議の概要

(1) 報告事項

- ア いわき市の歯科保健の現状について
- イ 令和6年度庁内各課の取り組み
(健康いわき 21 (第三次) 関連事業の評価)
- ウ 令和7年度保健所地域保健課の取り組み

発 言 者	内 容
議長	フッ化物洗口事業の実施状況について、公立小学校はモデル校4校となっているが、担当課は推進や拡大していくといった方向ではないのか。
事務局	公立小学校の主管課は教育委員会である。昨年度は、事業の廃止等の検討があった。しかし、本市としてもフッ化物洗口を推進していくためには、公立小学校での実施施設数を拡大していかなければならないと協議し、教育委員会でも推進に向けて学校校長会で事業実施に前向きな学校や手を挙げる学校があるかなど模索している。 また、教育委員会の担当者が本年度の福島県主催のフッ化物洗口研修会に参加し、公立小学校での実施拡大について、検討している方向であることを確認している。
A 委員	この部会に数年携わっている。今年度と前年度の公立小学校の実実施施設数の比較が資料に掲載されているが、この実施施設数は過去数年変わっていない。モデル校4校も同じ小学校である。そして、前々年度は、実施校を増やす、実施校をシャッフルするなどの話も出ていた。その件について打診はしたと思うが、何も動いていただけなかったということか。
事務局	教育委員会は推進に向けて動いていきたいが、なかなか学校現場との調整がうまく進まない現状である。実施の課題として、現場の負

	担増加が要因として挙げられるが、調剤不要なポーシオンタイプのフッ化物洗口液に変更するなど、少しでも負担がないような形にすることで、学校現場の理解をえられるような手法を取り入れるように努めているが、まだ実施学校の拡大には至っていない。
A 委員	資料内の各グラフの中で「全国平均と比較すると高い状況」といった文言が多かった。おそらく、乳幼児期のフッ化物応用が小学生になるにつれて乏しくなり、数値が悪くなるのが原因だろう。データの数値は全国平均より高いかもしれないが、減少率は変わらない。ということは、いわき市も他も同じだと思う。そこをどうしていくかが論点だと思う。そのため、フッ化物洗口の取り組みに関しては、もう少し踏み込んでいかなければ毎回同じ結果になってしまうことは打破したい。
議長	事業推進に向けての意向や学校校長会などの判断もあると思うが、学校の立場の意見について伺いたい。
G 委員	資料内データを拝見して、公立小学校の実施状況について把握できた。公立の学校でフッ化物洗口を実施するとなると養護教諭が主体となるが、養護教諭も、歯の大切さについて研究発表など成果を挙げている。フッ化物について、幼児健診でのフッ化物塗布率が高いこと、かかりつけ歯科医がある家庭が多いことに驚いた。このことから、かなりフッ化物が推進されていると感じた。しかし、学校の現場でフッ化物に対して抵抗のある保護者は間違いなくいる。フッ化物洗口は希望制で実施児童の把握が一律にできない、フッ化物への認識の違いなどといった現状がある。そこが課題ではないかと思う。
A 委員	モデル校4校から、クレームなどはなかったのか。
G 委員	特に無し。現状把握はしていないが、数年前からフッ化物洗口を実施しているということは、おそらく人事異動で養護教諭が替わっても継続して、その流れで引き継いでいるのだと思う。
議長	公立小学校の実施数が変わらないことが問題である。公立小学校の担当課である教育委員会が、来年度は新たに実施校を4校増やすくらいの強い気持ちで考えていかないと、現状のままになってしまう。フッ化物洗口を実施している就学前施設の中で、フッ化物洗口を希

	望しない児は数名程度である。そこから、小学生になりフッ化物洗口を希望しない生徒が 50%や 60%になることは考えられにくい。フッ化物洗口の効果や知見について説明をすれば、1 クラスに数名実施しない生徒はいるかもしれないが、大半は実施するはず。確かに、大規模校での実施は難しいかもしれないが、モデル校くらいの小規模校での実施は可能だと思う。もし、フッ化物洗口の継続が難しかったら、モデル校は継続実施に至っていないはず。ということは、ほかでも実施可能な学校はあるだろう。そのためには、学校校長会や養護教諭の理解が必要である。ぜひ、この部会から、公立小学校の実施拡大に向けて発信していきたい。
G 委員	意見として挙げたいと思う。
地域保健課長	この審議会からの強い要望として、教育委員会へ当課も働きかけていきたい。そのためにも、委員の方々の協力が必要である。
議長	このフッ化物洗口の拡大については、数字で言明するくらいでないと前に進まない。来年度の部会では、少しでも進展させたい。
E 委員	部会として、目標値をもって動くことはいいと思うが、学校側への依頼だけでなく、担当課は市民や各家庭に向けて、フッ化物洗口への理解が進むような P R を地道だが並行して実施していただければと思う。

(2) 協議事項

私立就学前施設におけるフッ化物洗口事業の推進について

発 言 者	内 容
議長	各委員より意見をいただきたい。
A 委員	資料内のフッ化物洗口研修会の内容を拝見すると、フッ化物洗口を実施した方がいいのは明らかである。推進に向けて皆さんで何かできることがあれば、一緒に考えていきたい。
B 委員	市歯科医師会では、市歯科医師会会員に、私立就学前施設の歯科検診の時期にフッ化物洗口未実施施設に対して事業周知を出来ればと思うが、「フッ化物洗口事業を推進してほしい。」と一言伝えるだけでは実効性がないと思う。こういった形で、具体的に周知できるかは、理事会等で協議していきたい。

C 委員	フッ化物洗口事業の拡大をどのようにしていくかが肝心である。主にフッ化物洗口事業に携わるのは、養護教諭であることから、その担当者に向けて、負担感等の不安軽減を私たちから情報として伝えていけたらと思う。 今、公立小学校4校モデル校での実施だが、その学校の養護教諭は異動等で替わっているのならば、案としてフッ化物洗口を実施している小学校に勤務していた養護教諭の移動先の小学校で実施となれば、実施方法や手順も理解しているだろう。そういった形で拡大を目指していくのも一つの方法だと思った。
D 委員	公立小学校は、何年も4校で継続しており拡大が課題である。私立就学前施設は、100%実施に向けて部会のなかでも推進していきたい。保健所でもいろいろな取り組みをしており、関係職種とも連携して、来年の部会では、私立就学前施設の実施率が50%に増えることを希望する。
E 委員	フッ化物洗口に関するアンケート調査から、園や学校で実施してほしいといった結果が読み取れた。しかし、施設側で実施に繋がらない。何が解消されれば事業実施に繋がるのか、原因追及し、一つずつ解決していければと思う。
F 委員	フッ化物洗口の効果を広く市民に周知していくことが重要である。特に口腔については、高齢になるにつれて口腔ケアに対しての悩みやトラブルが出てくる。そのため、将来的な観点からお知らせしていくのも良いと思った。
G 委員	公立小学校の実施データや、フッ化物洗口に関するアンケート調査から、多くの保護者が、園や学校でもフッ化物洗口に取り組んでほしいと考えていることが分かった。 ただ、学校の先生方も限られた時間の中で業務を遂行している。その中で、新しいことを開始すること、フッ化物は大切であることを理解していただくためには、周囲の方々の協力が必要である。
議長	私立就学前施設の嘱託歯科医の把握は何年か前に調査したが、現状どうなっているか分からない。
B 委員	私立就学前施設から市歯科医師会への、嘱託歯科医の依頼は受けて

議長	いない。就学前施設の歯科検診に併せた事業周知依頼は、嘱託歯科医個別に依頼するより、市歯科医師会全会員に向けて、周知依頼するしかない。 嘱託歯科医の把握について調査し、私立就学前施設の責任者に理解してもらえるよう、進めていきたい。
----	--